

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
指導計画に各学年とも様々な素材体験を意識して取り入れたり、環境や季節に合わせた題材を実施した結果、それぞれ興味関心をもち造形活動に取り組むことができている。	素材体験の積み重ねを自分の表現活動に生かすこと、自分の思いやイメージを自信をもって表現すること、新しく表現を生み出す意識をもつことが自然と活動に現れ、一人一人が自分のよさを伸ばすことができるよう授業展開の工夫を続ける。

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	図工が好きという児童が多く、造形遊びや表現活動に進んで取り組んでいる。ハサミや糊の取り扱いに慣れていない児童がいる。	児童が「描きたい」「造りたい」と思えるような題材設定を工夫しながら、基本動作を身に付けられるように丁寧に支援していく。
2年生	造形遊びや表現活動に喜んで取り組んでいる。手先の器用さや、材料を使う経験には個人差がある。	様々な素材・材料に出会わせ、つくったものを互いに見せ合ったり、紹介し合ったりすることで、児童の発想や想像を広げていく。
3年生	ほとんどの児童が進んで活動に取り組み、表現することができる。反面、身近な表現材料に関心をもったり、身体全体を十分に働かせて表現することが不安な児童もいる。	身近な表現材料に関心をもち、さらに発想を広げることができるように素材集めや材料体験ができるように題材を工夫する。季節を感じるなどより身近な教材を組み入れる。
4年生	友達との関わりも加え自分の思いが素直に表現できるようになってきているが、まだ素材体験を通しての発想を広げたり、自分の表現に自信の持てない児童もいる。	素材体験を重視した題材を考慮する。また用具、機械を繰り返し扱うことから各自が自主的に用いることができるように計画する。
5年生	個々の表現活動にあわせた用具・材料の活用を進めるが、既習の用具においてまだ基礎・基本に十分な配慮を要する児童もいる。	表現材料に興味をもって探し選ぶことができるように多種類の材料の経験を意図的に進める。作品や活動を通して、感じたこと考えたことを自分の言葉で表すことができるような課題設定を進める。
6年生	自分の表現活動を見通しをもち取り組むことができるように個人カードやワークシートを活用している。まだ自覚が持てず活動に滞りの出る児童もいる。	表現活動につながりをもたせ、常に個々を意識させることを意図的に課題に組み入れる。作品や活動を通して感じたこと、考えたことを自分の言葉で表すことができるような課題設定を進める。また見通しをもって活動できるように課題の進め方を考える。

●学校全体で取り組む内容

多くの素材体験を中心に個々の表現活動を広げること、つながりをもつことを考慮して、各学年の指導計画に組み入れる題材を配慮する。
鑑賞学習において、個々の思いを作品に添えたり、作品についての解説を行ったり、メッセージの交換、共有をしたりして言語能力、思考力の向上を常に考慮する。